

シラバス参照

開講年度(Academic Year)	2022
科目コード/科目名 (Course Code / Course Title)	カーボンニュートラル人材育成講座 (Carbon Neutrality human resources development course)
テーマ/サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	SDGs/気候変動問題
担当者 (Instructor)	河村 賢治(KAWAMURA KENJI) 村上 千里(MURAKAMI CHISATO)
授業形態 (Class Format)	対面(全回対面)Face to face (all classes are face-to-face)
時間割/教室 (Class Schedule/Room)	秋学期 (Fall Semester) 金曜日(Fri) 2時限(Period 2) 5402(Room)
単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2500
使用言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	
テキスト用コード (Text Code)	FE144

授業の目標 Course Objectives	<p>近年、極端な熱波、干ばつ、熱帯低気圧の強化、豪雨などの異常気象が、世界中の人々の生活に深刻な被害をもたらし、生態系にも大きな影響を与えています。これらの異常気象には地球温暖化が関係していると考えられており、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第6次評価報告書第1作業部会報告書(自然科学的根拠)では、人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことに疑う余地はないとされています。私たちの命の基盤である地球を、持続可能な形で次世代へつなげていくために、私たちはいま何をすべきかが問われています。そこで、この授業では、地球環境の現状をファクトに基づき理解した上で、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする取り組み(カーボンニュートラル)について深く学び、実際に企業や組織においてカーボンニュートラルを実現するための施策を提案・実行できる人材を育成することを目標とします。</p> <p>In recent years, extreme weather events such as extreme heat waves, droughts, intensified tropical cyclones, and heavy rains have caused serious damage to people's lives around the world and have a great impact on ecosystems. Global warming is thought to be related to these extreme weather events, and according to the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) Sixth Assessment Report, there is no doubt that human influences have warmed the atmosphere, oceans and land. What we should do now is being asked in order to sustainably connect the earth, which is the foundation of our lives, to the next generation. Therefore, the goals of this class are (1) to understand the current state of the global environment based on facts, (2) to learn deeply about efforts to reduce greenhouse gas emissions to zero as a whole (carbon neutral), and (3) To develop human resources who can actually propose and implement measures to realize carbon neutrality in companies and organizations.</p>										
授業の内容 Course Contents	<p>受講生の皆さんには、リアルな課題に取り組んでもらいます。今年度は、①本学でカーボンニュートラルを実現するにはどうすればよいか、②豊島区でカーボンニュートラルを実現するにはどうすればよいかという点に関連する具体的な課題を皆さんに投げかけます。皆さんには、授業を通じて課題解決に役立つ知識を学んでもらい、グループワークによって課題に対する自分たちのアイデアを練り上げ、最後にそのアイデアを披露してもらいます。こうした実践的な学びを通じて得られる力は、皆さんの社会課題解決への思いを実現していく上で役立つはずですが、この授業では、第一線で活躍される方々にゲストスピーカーとして来ていただき、皆さんの学びをサポートします。本学キャンパスや豊島区における関連施設の見学なども取り入れる予定です。なお、最初にグループを作りますので、最後までこの授業を受講する気持ちのある方だけに参加してもらえればと思います。</p> <p>また、持続可能な開発のための教育(ESD)の第一人者である阿部治先生(立教大学名誉教授)、及び、村上千里先生(本科目兼任講師就任予定)に授業のサポートをしていただきます。</p> <p>We ask all students to take on real challenges. This year, we will raise specific issues related to (1) how to achieve carbon neutrality at our university and (2) how to achieve carbon neutrality in Toshima Ward. We ask all students to (1) learn useful knowledge for problem solving through class, (2) formulate your own ideas for problems through group work, and (3) finally present your ideas. The power gained through such practical learning will surely help you to realize your thoughts on solving social issues. In this class, we invite people who are active on the front lines to come as guest speakers to support your learning. We also plan to include tours of related facilities on our campus and Toshima Ward. In addition, since we will create a group at the beginning, we hope that only those who are willing to take this class until the end will participate. In addition, Professor Osamu Abe (Professor Emeritus of Rikkyo University) and Lecturer Chisato Murakami (scheduled to be appointed as a lecturer for this subject) will support the class.</p>										
授業計画 Course Schedule	<table border="1"> <tr> <td>1.</td> <td>授業概要の説明と課題(本学の課題と豊島区の課題)の提示 グループに分かれて自己紹介の後、課題に関する自由討論</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>気候変動に関する政府間パネル(IPCC)報告書と気候変動のリスク ゲストスピーカー:この分野における日本を代表する専門家であり、IPCC報告書の執筆者の一人である国立環境研究所の江守正多先生</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>カーボンニュートラルに関する世界と日本の取り組み ゲストスピーカー:日本の環境政策を所管する環境省でグリーンファイナンスなどを担当しておられる水野紗也様</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>カーボンニュートラルに関する地方公共団体の取り組み ゲストスピーカー:豊島区において環境施策に係る計画策定や地球温暖化対策等を担当しておられる豊島区役所の岡田英男様</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>豊島区の課題に関する施設等の見学 ゲストスピーカー:当該施設の関係者の方</td> </tr> </table>	1.	授業概要の説明と課題(本学の課題と豊島区の課題)の提示 グループに分かれて自己紹介の後、課題に関する自由討論	2.	気候変動に関する政府間パネル(IPCC)報告書と気候変動のリスク ゲストスピーカー:この分野における日本を代表する専門家であり、IPCC報告書の執筆者の一人である国立環境研究所の江守正多先生	3.	カーボンニュートラルに関する世界と日本の取り組み ゲストスピーカー:日本の環境政策を所管する環境省でグリーンファイナンスなどを担当しておられる水野紗也様	4.	カーボンニュートラルに関する地方公共団体の取り組み ゲストスピーカー:豊島区において環境施策に係る計画策定や地球温暖化対策等を担当しておられる豊島区役所の岡田英男様	5.	豊島区の課題に関する施設等の見学 ゲストスピーカー:当該施設の関係者の方
1.	授業概要の説明と課題(本学の課題と豊島区の課題)の提示 グループに分かれて自己紹介の後、課題に関する自由討論										
2.	気候変動に関する政府間パネル(IPCC)報告書と気候変動のリスク ゲストスピーカー:この分野における日本を代表する専門家であり、IPCC報告書の執筆者の一人である国立環境研究所の江守正多先生										
3.	カーボンニュートラルに関する世界と日本の取り組み ゲストスピーカー:日本の環境政策を所管する環境省でグリーンファイナンスなどを担当しておられる水野紗也様										
4.	カーボンニュートラルに関する地方公共団体の取り組み ゲストスピーカー:豊島区において環境施策に係る計画策定や地球温暖化対策等を担当しておられる豊島区役所の岡田英男様										
5.	豊島区の課題に関する施設等の見学 ゲストスピーカー:当該施設の関係者の方										

4	6.	<p>本学の課題に関する施設等の見学            ゲストスピーカー: 本学において省エネ等を含めた施設管理等を担当しておられる餅田忠様</p>						
	7.	<p>カーボンニュートラルを進める上で必要となる専門知識(CO2排出量の算定方法、省エネ・創エネ・再エネ・カーボンオフセット、資金調達的手法など)①            ゲストスピーカー: 日本の環境政策を所管する環境省において企業の脱炭素経営の促進などを担当している金澤晃汰様(または実際に事業者支援を行っているコンサルの方)</p>						
	8.	<p>カーボンニュートラルを進める上で必要となる専門知識(CO2排出量の算定方法、省エネ・創エネ・再エネ・カーボンオフセット、資金調達的手法など)②            ゲストスピーカー: 日本の環境政策を所管する環境省において企業の脱炭素経営の促進などを担当している金澤晃汰様(または実際に事業者支援を行っているコンサルの方)</p>						
	9.	<p>カーボンニュートラルに関する企業の取り組み            ゲストスピーカー: TCFD・SBT・RE100のすべてに取り組み、脱炭素経営を積極的に推し進めている株式会社丸井グループサステナビリティ部</p>						
	10.	<p>カーボンニュートラルに関する他大学の取り組み            ゲストスピーカー: 立命館大学において学生によるエコプロ等の活動の後押しや同大学のカーボンニュートラルの取り組みを推進している佐藤圭輔先生など</p>						
	11.	グループワーク(プレゼンテーションの準備)						
	12.	グループワーク(プレゼンテーションの準備)						
	13.	<p>豊島区の課題に対する受講生からのプレゼンテーション            ゲストスピーカー(プレゼンテーションに対するコメント): 豊島区において環境施策に係る計画策定や地球温暖化対策等を担当しておられる豊島区役所の石井聡美様</p>						
	14.	<p>本学の課題に対する受講生からのプレゼンテーション            ゲストスピーカー(プレゼンテーションに対するコメント): 本学において省エネ等を含めた施設管理等を担当しておられる餅田忠様</p>						
	4	<p>授業時間外(予習・復習等)の学習            Study Required Outside of Class</p>	<p>受講生の皆さんは、各回のテーマに関連する情報を新聞等で収集しておき、先生方の話をより深く理解できるよう努めてください。先生方から予習・復習の指示がある場合には、各回の資料に掲載されますので、それに従ってください。</p>					
4	<p>成績評価方法・基準            Evaluation</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類(Kind)</th> <th>割合(%)</th> <th>基準(Criteria)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常点(In-class Points)</td> <td>100 %</td> <td>課題に対するプレゼン(50%)、授業時の発言・グループワークへの協力・リアクションペーパー等(50%)</td> </tr> </tbody> </table>	種類(Kind)	割合(%)	基準(Criteria)	平常点(In-class Points)	100 %	課題に対するプレゼン(50%)、授業時の発言・グループワークへの協力・リアクションペーパー等(50%)
種類(Kind)	割合(%)	基準(Criteria)						
平常点(In-class Points)	100 %	課題に対するプレゼン(50%)、授業時の発言・グループワークへの協力・リアクションペーパー等(50%)						
4	<p>テキスト            Textbooks</p>	特に指定しません。						
4	<p>参考文献            Readings</p>	必要に応じ、先生方から紹介していただきます。						
4	<p>その他(HP等)            Others (e.g. HP)</p>	第一線で活躍されるゲストスピーカーの先生方のお話を聞けるだけでなく、受講生自らが課題解決のためのアイデアを検討していく実践型の授業です。						
4	<p>注意事項            Notice</p>	本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。						